



2023年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2023年10月13日

上場会社名 note株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5243 URL https://note.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 加藤 貞顕
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 鹿島 幸裕 (TEL) 050(1751)2329
 四半期報告書提出予定日 2023年10月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト・個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年11月期第3四半期の業績 (2022年12月1日～2023年8月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年11月期第3四半期	2,054	18.8	△363	—	△399	—	△399	—
2022年11月期第3四半期	1,729	—	△514	—	△521	—	△523	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2023年11月期第3四半期	△26.59		—					
2022年11月期第3四半期	△37.11		—					

(注) 2023年11月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年11月期第3四半期	3,335	1,559	46.8
2022年11月期	3,303	1,817	55.0

(参考) 自己資本 2023年11月期第3四半期 1,559百万円 2022年11月期 1,817百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年11月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年11月期	—	0.00	—	—	—
2023年11月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年11月期の業績予想 (2022年12月1日～2023年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,850	23.0	△430	—	△450	—	△450	—	△29.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年11月期3Q	15,146,900株	2022年11月期	14,617,900株
2023年11月期3Q	一株	2022年11月期	一株
2023年11月期3Q	15,040,768株	2022年11月期3Q	14,118,739株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料の3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手について

当社は、2023年10月13日（金）に機関投資家・アナリスト・個人投資家向けの決算説明会を開催する予定です。この説明会の資料はTDnetで開示するとともに、当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の沈静化により国内の経済・消費活動は正常化が進み、景況感が回復してきた一方で、世界的な資源価格の高騰や不安定な為替の動向、商品・サービスの値上げによる物価高等により依然先行き不透明な状況が続いています。

このような状況の下、当社は、note事業（クリエイターがユーザーとコミュニケーションをとりながらデジタルコンテンツを創作・公開・販売できるプラットフォーム「note」の運営）、note pro事業（法人向け情報発信SaaS「note pro」の運営）、法人向けサービス事業（「note」上での企業協賛型コンテストの実施など）を主要な事業として展開してまいりました。

「note」については、継続的な機能改善によってプラットフォームに集まるユーザー・コンテンツが順調に増加しており、2023年8月末時点で累計会員登録者数は700万人、公開コンテンツ数は3,740万件となりました。当第3四半期会計期間における流通総額は3,607百万円（前年同期比27.7%増）となり、引き続き高水準で推移しています。「note pro」については、noteのサービス成長に伴う企業からの認知度向上により引き続き利用企業は増加しており、2023年8月末時点でARR^{(注)1}は454百万円（前年同期比33.5%増）となりました。法人向けサービス事業については、「note」のユーザー数増加などにより、「noteコンテスト」案件が堅調に推移しております。

その結果、当第3四半期累計期間の売上高は2,054,352千円（前年同期比18.8%増）となりました。内訳は、note売上高1,647,764千円（前年同期比21.7%増）、note pro売上高310,919千円（前年同期比39.0%増）、法人向けサービス売上高85,813千円（前年同期比1.0%増）、その他売上高9,855千円（前年同期比85.2%減）です。その他売上高が85.2%減少した理由は、コンテンツ配信サービス「cakes」を前事業年度にクローズした影響によるものです。一方、自社サービスを拡大するため人材採用やプロダクトの開発コストが先行した結果、営業損失は363,826千円（前年同期は514,489千円の営業損失）、の経常損失は399,102千円（前年同期は521,829千円の経常損失）、四半期純損失は399,985千円（前年同期は523,880千円の四半期純損失）となりました。

なお、当社はメディアプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(注) 1. ARR=Annual Recurring Revenueは、各四半期末月のMRR^{(注)2}を12倍したものである。

2. MRR=Monthly Recurring Revenueは、月次経常収益。MRRには、note proの基本料金に加え、一部オプション料金も含む。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は前事業年度末に比べ65,129千円増加し、3,260,822千円となりました。これは主に、自社サービスを拡大するため人材採用やプロダクトの開発コストが先行した結果、四半期純損失が発生したことなどにより現金及び預金が299,340千円減少した一方で、「note」の流通総額の伸長などにより未収入金が315,143千円、受取手形及び売掛金が41,929千円増加したことなどによります。

固定資産は前事業年度末に比べ33,088千円減少し、74,298千円となりました。これは主に、本社及びイベントスペースの移転に伴う敷金の減少などにより、投資その他の資産が35,404千円減少したことなどによります。

この結果、資産合計は前事業年度末に比べ32,040千円増加し、3,335,121千円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べ369,954千円増加し、1,695,273千円となりました。これは主に、「note」の流通総額の伸長などによりクリエイター向けの預り金が増加したため、預り金が241,476千円増加したこと、また、長期借入金からの振替により1年内返済予定の長期借入金が80,000千円増加したことなどによります。

固定負債は前事業年度末に比べ80,000千円減少し、80,000千円となりました。これは、1年内返済予定の長期借入金への振替により長期借入金が80,000千円減少したことによります。

この結果、負債合計は前事業年度末に比べ289,954千円増加し、1,775,273千円となりました。

(純資産)

純資産は、前事業年度末に比べ257,913千円減少し、1,559,848千円となりました。これは、株式上場による新株式の発行などにより、資本金及び資本剰余金がそれぞれ71,035千円増加した一方で、四半期純損失の計上により利益剰余金が399,985千円減少したことによります。

以上により当第3四半期会計期間末の自己資本比率は46.8%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年11月期の通期業績予想は、「note」の更なる利用ユーザー獲得に向けた機能開発や各種施策の実施を背景とする売上成長並びにコストマネジメント強化の取り組み推進による業績への影響について、正確に予測することが困難であったことから、レンジでの開示としておりました。

今般、第3四半期までの進捗に鑑み、2023年11月期の残り期間における予測の精緻化を行った結果、当初の業績予想のレンジの範囲内で推移しているものの、営業利益以下の利益指標については上方修正の開示基準に達しており、特定値での業績予想を開示することが投資家の投資判断に資するものと考え、特定値での業績予想として修正して開示いたしました。

詳細は、本日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年11月30日)	当第3四半期会計期間 (2023年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,188,649	1,889,309
受取手形及び売掛金	136,142	178,071
仕掛品	845	706
未収入金	818,555	1,133,698
その他	51,500	59,036
流動資産合計	3,195,693	3,260,822
固定資産		
有形固定資産	19,375	21,691
無形固定資産	0	—
投資その他の資産	88,011	52,607
固定資産合計	107,386	74,298
資産合計	3,303,080	3,335,121
負債の部		
流動負債		
買掛金	611	554
1年内返済予定の長期借入金	—	80,000
未払法人税等	2,700	17,492
預り金	1,091,882	1,333,359
その他	230,124	263,866
流動負債合計	1,325,318	1,695,273
固定負債		
長期借入金	160,000	80,000
固定負債合計	160,000	80,000
負債合計	1,485,318	1,775,273
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	171,035
資本剰余金	2,562,103	2,633,139
利益剰余金	△844,341	△1,244,326
株主資本合計	1,817,761	1,559,848
純資産合計	1,817,761	1,559,848
負債純資産合計	3,303,080	3,335,121

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)
売上高	1,729,175	2,054,352
売上原価	173,562	159,447
売上総利益	1,555,613	1,894,905
販売費及び一般管理費	2,070,103	2,258,731
営業損失(△)	△514,489	△363,826
営業外収益		
受取利息	11	17
違約金収入	6,187	4,085
その他	2,390	2,930
営業外収益合計	8,590	7,033
営業外費用		
支払利息	788	569
事務所移転費用	—	29,887
その他	15,141	11,852
営業外費用合計	15,930	42,309
経常損失(△)	△521,829	△399,102
特別利益		
固定資産売却益	—	1,039
特別利益合計	—	1,039
特別損失		
固定資産除却損	25	0
特別損失合計	25	0
税引前四半期純損失(△)	△521,855	△398,062
法人税、住民税及び事業税	2,025	1,922
法人税等合計	2,025	1,922
四半期純損失(△)	△523,880	△399,985

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)

当社は、2022年4月21日付で、Image Frame Investment (HK) Limitedより第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期累計期間において資本金が1,000,070千円、資本準備金が1,000,070千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が1,100,070千円、資本剰余金が2,562,103千円となっております。

当第3四半期累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)

当社は、2022年12月21日付で東京証券取引所グロース市場に株式を上場いたしました。この上場にあたり、2022年12月20日を払込期日とする有償一般募集増資(ブックビルディング方式による募集)による新株式210,000株の発行により、資本金及び資本剰余金はそれぞれ32,844千円増加しております。

また、2023年1月23日を払込期日とする有償第三者割当増資(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)による新株式191,800株の発行により、資本金及び資本剰余金はそれぞれ29,997千円増加しております。

さらに、当第3四半期累計期間における新株予約権(ストックオプション)の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ8,194千円増加し、この結果、当第3四半期会計期間末において、資本金が171,035千円、資本剰余金が2,633,139千円となっております。